

## 【プラごみ・ペットボトルごみ削減について】

スウェーデンのグレタ・トゥーンベリーさんが、気候変動問題に対する各国の消極的な姿勢に怒りの声を上げ、世界中の若者たちが次々と訴えの声を上げている。東京都も「ゼロエミッション東京」宣言で対策を進める姿勢。

市では、廃棄物減量及び再利用促進審議会や環境保全審議会で取組みの新設や強化を予定しているが、市内のプラスチックごみは増加中。それにもかかわらず、プラスチックごみが出るオリンピックグッズを大量に作成・配布したり、市長と語るふれあいトークングで参加者にペットボトル飲料を配ったりしている。鎌倉市に倣ってプラごみゼロ宣言を行い、全庁的にプラ・ペットボトルごみ削減に取り組むべき。

### < 答弁 >

これまでもISO14001に基づく取組の中で、市庁舎の「ごみ排出量削減・リサイクルの推進」を掲げ、マイボトル持参を促すほか、会議でペットボトル飲料を極力提供しない、などの取組を進めてきた。また、平成31年3月には「一般廃棄物処理基本計画」を改訂し、「環境負荷の低減」を施策に掲げ、「海洋プラスチックごみ対策の検討」を位置付けた。

本年度は、プラスチックごみの減量や海洋流出防止に繋がる市独自の取組を実践するため、「調布市廃棄物減量及び再利用促進審議会」や「調布市環境保全審議会」で協議を行い、『(仮称)CHOFU(調布)プラスチック・スマートアクション』の立ち上げを予定。

まずは、市職員の率先行動を強化し、マイボトル、マイバック等の積極的使用や、レジ袋等のワンウェイプラスチックの受け取りを辞退することなどの取組を推進していく。